



1

569
五
95
一段別頁

人生観 2号
藝術上の所感

金子馬次

第5号

H-154

理

頁付

569
五

最近讀んだ書物の一つは、此の價値美の著者
ルドルフ・オーデグレンの現代の美学 (Aesthetik
des Gegenwart) の巻末の美学の紀元上の叙
説が、つと私の注意を引いた。最近代美の
他、人生観と藝術との関係や、生命の學と
藝術との関係と藝術の學と、いろいろの書物
を讀むと、深く自分の人生観と及ぼす機會が
ある。断片的に書き記して来た。

オードブレンドは、今日からは最早過
の人と見られる。彼の藝術上の紀元上の
書物と並べると、彼の藝術上の紀元上の
ケルトの紀元上の書物と並べると、彼の
也、断片的に書き記して来た。

最近の書物と並べると、彼の藝術上の紀元上の
ケルトの紀元上の書物と並べると、彼の
也、断片的に書き記して来た。

近代の書物と並べると、彼の藝術上の紀元上の
ケルトの紀元上の書物と並べると、彼の
也、断片的に書き記して来た。

(岩波書店原簿用紙)

最近の書物と並べると、彼の藝術上の紀元上の
ケルトの紀元上の書物と並べると、彼の
也、断片的に書き記して来た。

2. 遂に絶対美の超越世界——所謂超越世界
 的絶対美の本世界——を對するに於ては、
 凡ルケルトの藝術の世を對するより人生觀の如
 く。オージェブレヒトは此の意を説いた。凡
 しが、凡ルケルトは藝術の意味に於て絶対美と
 絶対愛の世を對する如く、
 次に著者に於ては、オージェブレヒトの絶対人格説
 ——藝術は個人格を超越する絶対人格を
 せしめんとす」と説く絶対人格説——に於ては、
 凡ルケルトの次にシュンスターベルグの如く、
 絶対世界と環境するものと主張し、
 シュンスターベルグはフヒテ式意志又は行為
 の力に於ては、藝術は絶対美の世を對する
 するものと主張した。彼の主張は凡ルケルト
 藝術は個人格を對する如く、
 凡ルケルトの意に於ては、
 絶対美と凡ルケルトの世界的知識の絶対美の如く
 には外ならずなりと。
 オージェブレヒトは、此の外に有三氏の如く

(岩波書店原稿用紙)

4

本 ^を *Frangilität* と ^を 解釋し得る。これ
は *Stark* の *Romantische Drom* の *Stark*、
Größe といふことである。

藝術的價值のあり得る本體化又は藝術化と
此類のオードブルに於ては、彼れ独自の藝術
論の創造的綜合の藝術論の真の根本のあり
又形而上学的境地のありと至極し得る。力
この美学説の概観し得るし、彼れ ^の 藝術の
Formenentwicklung の ^の 総合的 ^の 展開、
その意見は南に於ては、私にも相當の敬意を表す。

七の ^の あり得る、これの ^の 藝術的境地の ^の 窮極
の ^の あり得るの ^の 意見に於ては、私には ^の 藝術化に於
同ずること ^の 出来ぬこと。
第二

絕對價值の本體化又は藝術化は、もはや過去
の ^の 形而上学的あり得る、今日の ^の 藝術化は、
に ^の 現實的 ^の あり得る、これは、オードブルに於ては、
し ^の あり得る。私には、^の 藝術化の ^の あり得る
字は、^の 藝術化の ^の あり得る、^の 藝術化の ^の あり得る
理想的 ^の あり得る、^の 結果 ^の あり得る、^の 藝術化の ^の あり得る

(岩波書店原稿用紙)

此のほ、護符の思想の現実の深刻と絶望し、現
 代人の取つては、斯うな理想は餘りに希
 になつてゐる。華やかの共鳴すること
 出来ぬ。現実存在は餘りに深刻であり、護符
 のあり方に悪影響を及ぼす。

藝術と軍紀は美しく華やかなるものと云へ
 時代は既に過ぎ去つた。美といふ軍紀の言葉
 は、藝術現象と絶不相容である。

軍紀に過るもの。藝術の受ける感銘は快
 感といふ愉快といふ形容することば、過るもの軍紀の
 美感

藝術の場合の如く、護符の人生味と絶望と
 の近代藝術に好し、美しく不似合である。

近代藝術はむしろ深刻な感銘と士へ與へる
 はずい、人生と軍紀は美し、(美)と絶望と云

の要は即ち現代の絶望には一致する。

スターリンや三ツスターリンの藝術と絶對
 的超越世界を信仰せしめ乃至意欲せしめ、道

徳の如く、説く主張は、やはり過るもの前代
 の飛躍上等のもの、決して今日の主張の如く

とは考へられぬ。超主觀的超越物を云ふ

(岩波書店原稿用紙)

今日我の自

ことか今日もはや過去の哲学があるとし
 かたへかたへ私にこの自分の立場を説
 明しようとするわけに、^{その}この信仰も
 ような絶対的超越物と云ふことには、^{この}この
 どのまともな神聖の存在物と云ふもの
 が正しきものか否かを問ふ。主観的
 と云ふことも、自分の心の中に、主観的
 心の主観を統合した *Intensivität* の世界
 | 結くけイニター、スブエクティブな経験の
 対象が真の形而上学の世界の心かと云ふ
 こと。

ことか今日もはや過去の哲学があるとし
 かたへかたへ私にこの自分の立場を説
 明しようとするわけに、^{その}この信仰も
 ような絶対的超越物と云ふことには、^{この}この
 どのまともな神聖の存在物と云ふもの
 が正しきものか否かを問ふ。主観的
 と云ふことも、自分の心の中に、主観的
 心の主観を統合した *Intensivität* の世界
 | 結くけイニター、スブエクティブな経験の
 対象が真の形而上学の世界の心かと云ふ
 こと。

(岩波書店原稿用紙)

10

は全く異なり、生命作用の複雑現象の創造的活
 動は、それと異なり、大衆的であり、個々の精神は
 此の基礎と地盤の上に立つた、その創造的力
 である。即ち藝術の創造作用は自然の創造作
 用の連続であり、延長であり、前者の創造作用
 のより一貫した生命現象である。心は
 一つの次元を越えて自然と藝術家の創造作用は一
 種神秘的な全体的作用——部分の計算する機械
 作用とは全く異なり、全体的現象作用である。説
 明するが、彼れは藝術現象に藝術の精神と
 心のあり方と、芸術者のあり方。

更に近代藝術の複雑現象の本質は、それと異
 なる、その精神は、説明される。全体的人生
 の中に波瀾重畳と、複雑な現象として、その現象
 ——複雑深刻な精神現象、中流を至極的現象
 である——それ等が複雑現象の進行に、これ全
 く、心は、その精神と、一に、それ等が、人生
 大のそのあり方、その創造作用は、それと異
 なる、その人生の中心軸と成すものあり。藝
 術のその人生は、異なり、人生は、藝術の母胎であり

(岩波書店原稿用紙)

（このタイプに取って）

基本がある。ベルグマンに取って同じく護

範疇よりいって現象の捨が其のまゝ、藝術上の

形にその範疇の形である。

生命の字眼中ジグナルの分解は我々の

の注意を引く。彼に取ってば、生命 (Leben)

と形式 (Form) との対立は、恰も生成 (Werdung) と

成果 (Gewordenheit) との対立である。生命は

絶対的生成作用である、これに於いて

その形に制限される造り出されるものや形式

である。此のジグナルは従って、生命と形式

とは These と Antithese との対立である。こゝに總

合的形^辯証^作が行はれる。世界は其の復

雑^辯証的創造である。斯くの立脚地から彼

れの^{独自}なジグナルは論如容易に消滅する

。古典藝術は要するに形式にのみ過ぎない

に及し、レムブラントの藝術は、真に生命の創

造的生成を示すものであるといふのが、ジグナ

ル独自の解釋である。古典藝術は其の如く

と様々の完成^物の如くは及し、レムブラント

の如くは内的生命と最も鮮やかに我々の目

(岩波書店原稿用紙)

に見せしものなり。その生活の鮮明なる現
 在は彼の独自の藝術である。即ち生命の神秘的
 なる創造と本質とを以て我々の知るものなり。彼
 の藝術は生命の創造を基本とするものなり。

藝術は生命の創造を基本とするものなり。
 即ち創造は藝術の本質なり。全く創造
 と缺いた藝術といふことは考へられぬ。藝
 術論は即ちその創造と缺いた現象のその
 五次元のその全く創造と缺いた現象のその
 現象といふことには其の無意義なり。

かく現象は即ちその高現象次に何等
 か一層高の創造は即ちその高現象次に何等
 生命のその。藝術は生命の創造の根拠とし
 るものと共に、生命創造の最先段階に於て、
 生命創造と統一するものなり。生命創造
 の最も高の段階は即ちその高現象次に何等

第四

前代の過る人々を超越する理想のその
 七に對して、現代の現象主義は、藝術創造の
 能動と其の現象の本質に對する、現象的

(岩波書店原稿用紙)

因

此の...
 次第に歴史的に弁察し来た...
 興味深い大由題...
 此の...
 因...
 根本的...
 斯くの如き大土...
 民族に特殊な...
 位9 犠牲的精神に...
 印...
 根本位9 精神と、根本的に...
 位9 犠牲的精神に...
 因...
 根本的...
 斯くの如き大土...
 民族に特殊な...
 位9 犠牲的精神に...
 印...
 根本位9 精神と、根本的に...
 位9 犠牲的精神に...
 因...
 根本的...
 斯くの如き大土...
 民族に特殊な...
 位9 犠牲的精神に...
 印...
 根本位9 精神と、根本的に...
 位9 犠牲的精神に...
 因...
 根本的...

(岩波書店原稿用紙)
 根本的に

遍

個人犠牲の精神...
 此の...
 系中...
 普及...
 向...
 日及...
 二十...
 毛...
 此の...
 系中...
 普及...
 向...
 日及...
 二十...
 毛...

手紙の巻



此の相反する二大神のあり、孰れか一方
 と他方の所令するに、到底不可能なるもの
 あり。一、ゲル式を非証法的総合に、現
 在のやうなものは如何にしろも考へられ
 ない。非証法的のやうなものは、~~非証~~
 総合主義的主張に外ならず。

現実の経験は、いかに複雑なるか、深刻なるか、
 予よりラニーと十百ナリ、~~然~~とほ深に其の中
 の顯著なものをいし、外はさうい。矛盾、転換、撞着、
 矛盾はむしろ現実の経験の特徴なり、大

手紙

生余の創造的進化は無限なる複雑なるもの
 深刻なるもの。斯くのまを近代藝術も、~~進化の~~
 此の進化に比較し、いかに深刻なる複雑なるもの

今日もほや

15